

◎指示があるまで開かないこと。

(令和2年2月8日 16時00分～18時30分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 101 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| | | | ↓ | | |
| 101 | (a) | (b) | (c) | (d) | ● |

答案用紙②の場合、

| | | |
|-----|---|-----|
| 101 | | 101 |
| (a) | | (a) |
| (b) | | (b) |
| (c) | → | (c) |
| (d) | | (d) |
| (e) | | ● |

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 102 | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) |
| | | | ↓ | | |
| 102 | ● | (b) | (c) | (d) | ● |

答案用紙②の場合、

| | | |
|-----|---|-----|
| 102 | | 102 |
| (a) | | ● |
| (b) | | (b) |
| (c) | → | (c) |
| (d) | | (d) |
| (e) | | ● |

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e へき地で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | | |
|-----|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 103 | <input type="radio"/> a | <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> c | <input type="radio"/> d | <input type="radio"/> e |
| | | | ↓ | | |
| 103 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> e |

答案用紙②の場合、

| | |
|-------------------------|-------------------------|
| 103 | 103 |
| <input type="radio"/> a | <input type="radio"/> |
| <input type="radio"/> b | <input type="radio"/> b |
| <input type="radio"/> c | → <input type="radio"/> |
| <input type="radio"/> d | <input type="radio"/> |
| <input type="radio"/> e | <input type="radio"/> e |

- (3) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg(1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35 %。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ②

(例4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の③を、②は④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 104 ② | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

答案用紙②の場合、

| | |
|-----|---|
| 104 | |
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

- 1 地域医療構想について誤っているのはどれか。
 - a 2025年の医療需要を推計する。
 - b 医療計画の一部として策定する。
 - c 構想区域は都道府県単位である。
 - d 病床の必要量を病床の機能別に推計する。
 - e 地域医療構想会議には医療保険者も参加する。

- 2 労働災害補償保険について正しいのはどれか。
 - a 通勤災害は含まれない。
 - b 保険者は市町村である。
 - c 労働災害の認定は厚生労働大臣が行う。
 - d 保険料は労働者と事業者の両方で負担する。
 - e 保険療養費は被災労働者の自己負担はない。

- 3 乳児の心肺蘇生法で正しいのはどれか。
 - a 胸骨圧迫の深さは胸の厚さの約1/2である。
 - b 胸骨圧迫は60～80回/分の速さで行う。
 - c 死戦期呼吸を認めたら蘇生行為を開始する。
 - d 2人の救助者で行う場合の胸骨圧迫と人工呼吸の比は30：2である。
 - e 脈拍の触知は大腿動脈で行う。

4 乳癌の再発で、余命が1年以内であるという内容の告知を受けた入院患者が死にたいと訴えた。

医師の対応で最も適切なのはどれか。

- a 頑張れと励ます。
- b 速やかに退院させる。
- c ホスピスへの入院を勧める。
- d 死について触れないようにする。
- e 現在の気持ちについて話題にする。

5 我が国の一次予防推進の基礎資料となるのはどれか。

- a 患者調査
- b 人口動態調査
- c 国民健康・栄養調査
- d 医師・歯科医師・薬剤師調査
- e 全国在宅障害児・者等実態調査

6 日本、アメリカ、イタリア、韓国およびフランスの合計特殊出生率の1990年から2018年までの推移(別冊No. 1)を別に示す。

日本はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

| |
|-------------|
| 別冊 No. 1 |
|-------------|

7 国家資格でないのはどれか。

- a 介護福祉士
- b 言語聴覚士
- c 理学療法士
- d 臨床工学技士
- e 医療ソーシャルワーカー

8 皮膚病変と疑うべき疾患の組合せで正しいのはどれか。

- a Sweet 病 ————— 慢性膵炎
- b 環状肉芽腫 ————— 甲状腺機能亢進症
- c 壊疽性膿皮症 ————— Fabry 病
- d 浮腫性硬化症 ————— 糖尿病
- e 脛骨前粘液水腫 ————— 潰瘍性大腸炎

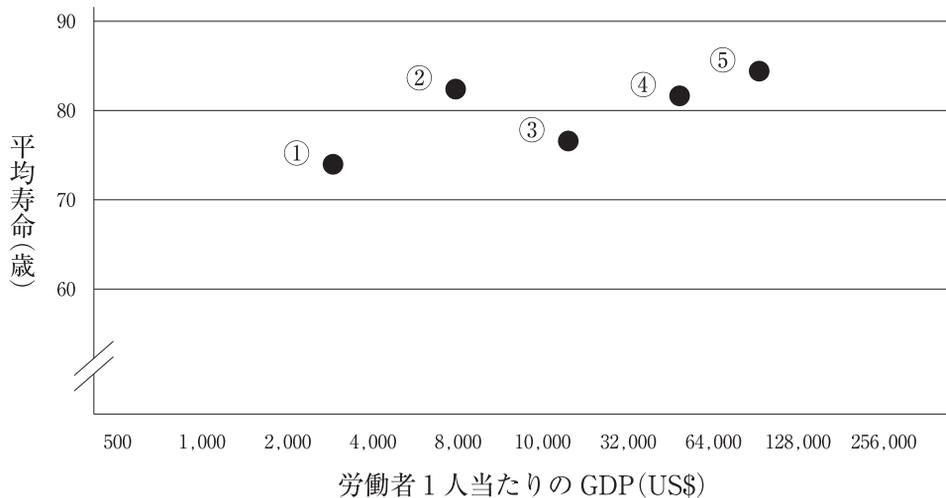
9 公共施設・建物におけるユニバーサルデザインの発想に基づく設備はどれか。

- a 市民会館の授乳室
- b 国道交差点の歩道橋
- c 市役所入口の自動ドア
- d 美術館のオストメイト対応トイレ
- e 駅のプラットホームの点字ブロック

10 造血幹細胞の特徴で正しいのはどれか。

- a 止血作用
- b 貪食作用
- c 酸素運搬能
- d 自己複製能
- e 血栓溶解作用

11 2018年の日本、イスラエル、韓国、中国およびベトナムにおける労働者1人当たりのGDP(横軸)と平均寿命(縦軸)を以下の図に示す。

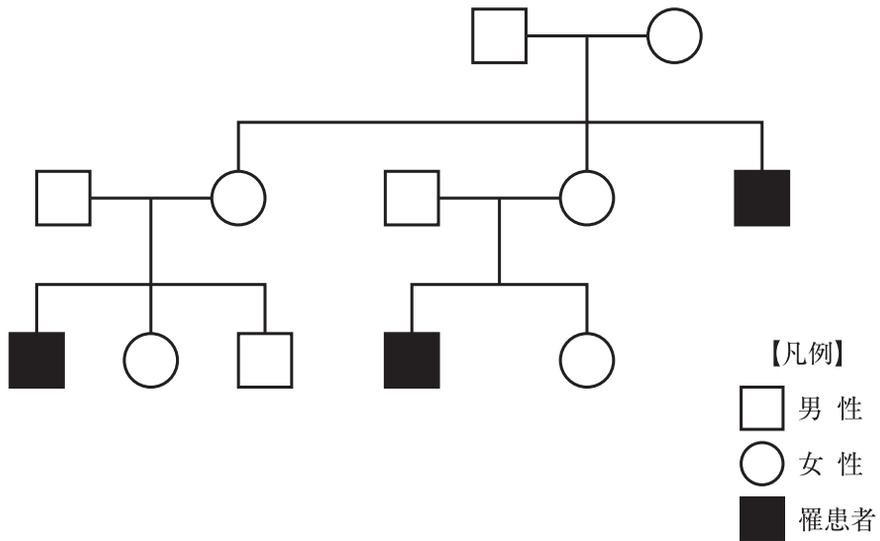


図中の●の組合せで正しいのはどれか。

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|---|-------|-------|------|----|-------|
| a | ベトナム | イスラエル | 中国 | 韓国 | 日本 |
| b | イスラエル | ベトナム | 韓国 | 日本 | 中国 |
| c | 中国 | イスラエル | ベトナム | 韓国 | 日本 |
| d | ベトナム | 日本 | 中国 | 韓国 | イスラエル |
| e | イスラエル | ベトナム | 日本 | 韓国 | 中国 |

- 12 食中毒について正しいのはどれか。
- a 食中毒患者を診断したとき保健所長に届け出る。
 - b サルモネラ菌による食中毒で発熱を起こすことはない。
 - c 黄色ブドウ球菌食中毒の予防には食品の食前加熱が有効である。
 - d カンピロバクターによる食中毒の潜伏期間は2～3週間である。
 - e 我が国での食中毒による患者数では腸炎ビブリオによるものが最も多い。
- 13 入眠困難を主訴とする不眠症の成人患者に対する指導として適切なのはどれか。
- a 「一定時刻に起床し日光を浴びましょう」
 - b 「可能な限り早い時刻に就床しましょう」
 - c 「就床前にアルコール飲料を飲むようにしましょう」
 - d 「一晩に8時間以上就床しているようにしましょう」
 - e 「就床後、入眠できない時はじっと眠気が来るのを待ちましょう」

14 遺伝性疾患(浸透率 100%)を持つ家系の家系図を示す。



この疾患の遺伝形式はどれか。

- a 常染色体優性遺伝
- b 常染色体劣性遺伝
- c X連鎖優性遺伝
- d X連鎖劣性遺伝
- e Y連鎖遺伝

15 視野異常と疾患の組合せで正しいのはどれか。

- a 管状視野 ————— 視神経炎
- b 同名半盲 ————— 黄斑疾患
- c 盲中心暗点 ————— 緑内障
- d Bjerrum 暗点 ————— 視路障害
- e らせん状視野 ————— 心因性視力障害

16 ある検査の質問内容を以下に示す。

- 1) お歳はいくつですか。
- 2) 今日は何年の何月何日ですか。
- 3) 私たちがいまいるところはどこですか。
- 4) これから言う3つの言葉を言ってみてください。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。
- 5) 100から7を順番に引いてください。
- 6) 私がこれから言う数字を逆から言ってください。
- 7) 先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみてください。
- 8) これから5つの品物を見せます。それを隠しますのでなにがあったか言ってください。
- 9) 知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください。

この心理・精神機能検査はどれか。

- a 田中・Binet 式知能検査
- b リバーミード行動記憶検査
- c Wechsler 成人知能検査(WAIS-III)
- d 改訂長谷川式簡易知能評価スケール
- e 簡易精神症状評価尺度[Brief Psychiatric Rating Scale(BPRS)]

- 17 加齢に伴う筋力の低下、関節や脊椎の病気および骨粗鬆症などによる運動器の障害のため移動機能の低下をきたし、要介護となる状態やそのリスクの高い状態を表す概念はどれか。
- a クラッシュシンドローム
 - b ダンピングシンドローム
 - c メタボリックシンドローム
 - d ロコモティブシンドローム
 - e コンパートメントシンドローム
- 18 被験者の検査1回当たりの放射線被ばくが最も多いのはどれか。
- a FDG-PET
 - b 頭部単純CT
 - c 上部消化管造影検査
 - d 腹部ダイナミックCT
 - e 胸部単純エックス線写真
- 19 小学校における保健指導により一次予防が期待される疾患はどれか。
- a 肥満症
 - b 低身長症
 - c 1型糖尿病
 - d 甲状腺機能亢進症
 - e 神経性食思〈欲〉不振症

20 日本人男性の1947年から2016年までのある死因についての年齢群別死亡率(人口10万対)の推移(別冊No. 2)を別に示す。

死因はどれか。

- a 悪性新生物
- b 脳血管疾患
- c 肺炎
- d 不慮の事故
- e 自殺

| |
|-------------|
| 別冊 No. 2 |
|-------------|

21 プロトロンビン時間が延長するのはどれか。

- a 血友病
- b 血小板無力症
- c ビタミン K 欠乏症
- d von Willebrand 病
- e IgA 血管炎(Schönlein-Henoch 紫斑病)

22 2歳0か月時の発達で遅れがあるのはどれか。

- a 三輪車をこげない。
- b 片足立ちができない。
- c 自分の姓名が言えない。
- d はさみで紙を切れない。
- e 興味のあるものに指さしをしない。

23 循環は保たれているが、自発呼吸がみられない患者に緊急頭部 CT を行う場合の呼吸管理として適切なのはどれか。

- a 酸素マスク
- b 経鼻エアウェイ挿入
- c 気管挿管による人工呼吸
- d 非侵襲的陽圧換気(NPPV)
- e 緊急気管切開による人工呼吸

24 維持輸液製剤(組成: Na^+ 35 mEq/L、 K^+ 20 mEq/L、 Cl^- 35 mEq/L、グルコース 5.0%)500 mL 中に含まれるエネルギー量(kcal)に最も近いのはどれか。

- a 25
- b 50
- c 100
- d 200
- e 400

25 胃の正常組織の H-E 染色標本(別冊No. 3)を別に示す。粘膜下層はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 3

26 別の種類の予防接種を行うまでに、27日間以上の間隔をおくべきなのはどれか。

2つ選べ。

- a BCG
- b 水痘ワクチン
- c B型肝炎ワクチン
- d 肺炎球菌ワクチン
- e ヒトパピローマウイルス〈HPV〉ワクチン

27 主に個人予防を目的としたB類疾病に含まれる定期予防接種の対象疾病はどれか。2つ選べ。

- a 風 疹
- b 麻 疹
- c 百日咳
- d インフルエンザ
- e 高齢者の肺炎球菌感染症

28 血清 LDL コレステロール値が上昇する原因として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 肝硬変
- b 1型糖尿病
- c 吸収不良症候群
- d 甲状腺機能低下症
- e ネフローゼ症候群

29 妊娠 37 週の胎児および胎児付属物と正常な所見の組合せで正しいのはどれか。

2つ選べ。

- a 胎児心拍数 ————— 90/分
- b 推定胎児体重 ————— 1,900 g
- c 羊水指数〈AFI〉 ————— 12 cm
- d ノンストレステスト〈NST〉 ————— reactive
- e Biophysical profile score〈BPS〉 ————— 4点

30 妊娠 37 週 0 日の妊婦に行った胎児心拍数陣痛図(別冊No. 4)を別に示す。

認められる所見はどれか。2つ選べ。

- a 徐脈
- b 基線細変動消失
- c 早発一過性徐脈
- d 遅発一過性徐脈
- e 変動一過性徐脈

別冊

No. 4

31 法律に基づく在宅ケアについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ケアプランは介護福祉士が作成する。
- b 人工呼吸器は在宅で使用可能である。
- c 訪問介護には医師の指示書が必要である。
- d 訪問診療は計画的・定期的に行う在宅医療である。
- e 通所リハビリテーションには医療保険が適用される。

- 32 HIV 感染症の検査について正しいのはどれか。3つ選べ。
- a 医師が HIV 感染症を疑う症状、所見があれば保険診療となる。
 - b スクリーニング検査の結果が判明するのは実施の2週間後である。
 - c スクリーニング検査は保健所において匿名で受けることができる。
 - d スクリーニング検査は保健所において無料で受けることができる。
 - e スクリーニング結果が陽性だった場合の確認検査は、エイズ治療拠点病院でのみ行うことができる。
- 33 保健所の役割はどれか。3つ選べ。
- a 3歳児健康診査
 - b 医療法に基づく立入検査
 - c 国勢調査の調査票の審査
 - d 地域における健康危機管理
 - e 人口動態統計の調査票の審査
- 34 女性化乳房の原因となり得るのはどれか。3つ選べ。
- a 肝硬変
 - b 尿崩症
 - c 精巣腫瘍
 - d ACTH 単独欠損症
 - e ドパミン受容体拮抗薬

35 3歳の女兒。右肘を動かさないことを心配した祖父に連れられて来院した。自宅で遊んでいた際、8歳の兄から右手を引っ張られた直後から右肘を動かさなくなった。右肘関節の橈骨頭周囲に圧痛を認める。同部に腫脹、熱感および発赤はない。肩関節と手関節とに異常を認めない。右肘関節エックス線写真で骨折を認めない。適切な治療はどれか。

- a NSAID
- b 徒手整復
- c シーネ固定
- d 肘関節包切開
- e 肘関節可動域訓練

36 58歳の男性。ショッピングセンターの駐車場でエンジンがかかったまま停車している自家用車を不審に思った買い物客により、運転席で死亡しているのを発見された。救急隊が現場に到着した時には既に硬直がみられたため病院には搬送されず、死因等究明のため司法解剖された。身長 170 cm、体重 90 kg。背面に死斑が高度に発現し、硬直は全身の諸関節で強い。外表に創傷はない。脳は 1,750 g で浮腫状である。胸郭・脊椎に骨折はなく、左右胸膜腔に液体貯留はほとんどない。心嚢に破裂はない。心重量は 610 g で冠状動脈に内膜肥厚・血栓はなく、心筋には異状を認めない。大動脈は Valsalva 洞から左鎖骨下動脈起始部の下 15 cm の高さにかけて、内外膜間が解離し、両端部の内膜および中膜に亀裂がある。肺と肝臓はうっ血しているが、臓器表面に異状はない。死後解剖前に撮影した胸部 CT(別冊No. 5 A)及び解剖時に心嚢を切開した際に撮影した写真(別冊No. 5 B)を別に示す。

最も考えられる病態はどれか。

- a 肝破裂
- b 肺挫傷
- c 脊髄損傷
- d 心筋梗塞
- e 心タンポナーデ

別 冊

No. 5 A、B

37 1歳の女児。咳嗽を主訴に受診した。数日前から咳嗽と鼻汁があり、夜間咳嗽が増強したため両親に連れられて救急外来を受診した。オットセイが吠えるような咳だという。身長 80.0 cm、体重 10.0 kg。体温 38.2℃。心拍数 120/分、整。血圧 90/58 mmHg。呼吸数 28/分。SpO₂ 96 % (room air)。胸骨上窩、鎖骨上窩に陥没呼吸を認める。両側胸部に軽度の吸気性喘鳴を認める。アドレナリンの吸入を行ったが症状が改善しない。

次に必要な対応はどれか。

- a 気管挿管
- b 吸入 β_2 刺激薬投与
- c 呼吸リハビリテーション
- d マクロライド系抗菌薬投与
- e 副腎皮質ステロイド全身投与

38 68歳の男性。労作時の呼吸困難を主訴に来院した。2年前から階段の昇降ですぐに呼吸困難が出現するようになったという。1年前から食欲もなく、半年間で体重が4 kg 減少したため、心配になり受診した。喫煙歴は30本/日を45年間。3年前から禁煙している。身長 165 cm、体重 47 kg。胸部エックス線写真で両側肺野に著明な透過性亢進を認め、胸部CTで両肺に低吸収域を認めた。呼吸機能検査で閉塞性障害を認めCOPDと診断された。

栄養療法の方針として適切でないのはどれか。

- a 塩分の過剰摂取を避ける。
- b 1回の食事摂取量を減らす。
- c 炭水化物主体の食事にする。
- d 十分なエネルギー量を摂取する。
- e 分岐鎖アミノ酸の摂取を心掛ける。

39 82歳の男性。歩行困難を主訴に来院した。IgA腎症による慢性腎不全で14年前から1回4時間、週3回の血液透析を受けている。2年前から歩行速度が低下し、最近では横断歩道を渡りきれないことがある。階段昇降も両手で手すりにつかまらなると困難で、通院以外の外出を控えるようになったという。体重は1年前から5kg減少し、このまま歩けなくなることを心配して受診した。身長167cm、体重47kg(透析直後体重46kg)。脈拍72/分、整。血圧138/72mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。浮腫はない。徒手筋力テストで両下肢とも4である。その他、神経診察に異常を認めない。両足背動脈は左右差なく触知する。血液所見：赤血球338万、Hb11.0g/dL、Ht33%、白血球5,200、血小板14万。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dL、アルブミン3.6g/dL、AST22U/L、ALT18U/L、LD178U/L(基準120~245)、CK38U/L(基準30~140)、尿素窒素72mg/dL、クレアチニン7.8mg/dL、尿酸7.4mg/dL、Na138mEq/L、K4.2mEq/L、Cl101mEq/L、Ca9.2mg/dL、P5.6mg/dL。CRP0.1mg/dL。

歩行困難の原因として考えられるのはどれか。

- a 腎性貧血
- b 高尿酸血症
- c 高リン血症
- d サルコペニア
- e 閉塞性動脈硬化症

40 9歳の男児。毎年学校で行われる体力測定において、有酸素運動能力の指標である往復持久走(20 m シャトルラン)の折り返し数が7歳時をピークに低下していることが学校医に報告された。6歳：20回【19.2】、7歳：26回【28.6】、8歳：24回【38.5】、9歳：19回【48.0】(【 】内は全国平均回数)。身長伸びはよく、体重の減少もない。本人に確認したところ毎年全力で走っているとのことである。

学校医として適切な対応はどれか。

- a 運動指導を行う。
- b 栄養指導を行う。
- c 体育実技を見学させる。
- d 医療機関への受診を促す。
- e 10歳時の体力測定の結果を待って対応を判断する。

41 59歳の女性。健康診断で便潜血反応陽性を指摘され来院した。下部消化管内視鏡検査が施行され、上行結腸癌と診断された。CT等の画像検査で明らかな転移はなく、右半結腸切除を行うこととなった。身長156 cm、体重48 kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧108/60 mmHg。呼吸数12/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球398万、Hb 12.5 g/dL、Ht 39%、白血球4,900、血小板14万。血液生化学所見：総蛋白6.6 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST 16 U/L、ALT 18 U/L、LD 184 U/L(基準120~245)、ALP 202 U/L(基準115~359)、クレアチニン1.0 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 101 mEq/L。

周術期管理で正しいのはどれか。

- a 術前48時間の絶食
- b 術前3時間までの飲水
- c 術中大量輸液
- d 術後3日間のベッド上安静
- e 術後1週間の絶食

42 48歳の男性。健康診断で白血球増多を指摘され来院した。1か月前から左腹部の膨満感を自覚していた。体温36.3℃。脈拍72/分、整。血圧126/74 mmHg。表在リンパ節を触知しない。脾臓を左肋骨弓下に5 cm触知する。血液所見：赤血球450万、Hb 13.8 g/dL、Ht 45%、白血球46,000(骨髄芽球1%、前骨髄球3%、骨髄球5%、後骨髄球10%、桿状核好中球15%、分葉核好中球54%、好酸球2%、好塩基球5%、リンパ球5%)、血小板37万。血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dL、アルブミン4.8 g/dL、総ビリルビン0.7 mg/dL、直接ビリルビン0.1 mg/dL、AST 20 U/L、ALT 27 U/L、LD 350 U/L(基準120~245)、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、尿酸6.8 mg/dL。腹部CT(別冊No. 6)を別に示す。

治療方針を決定するために最も重要な検査はどれか。

- a 骨髄染色体
- b 骨髄組織H-E染色
- c 末梢血細胞表面抗原
- d 骨髄血塗抹May-Giemsa染色
- e 末梢血好中球アルカリフォスファターゼスコア

別冊

No. 6

43 76歳の男性。腹部膨満感と腹痛を主訴に来院した。3か月前に急性単球性白血病(FAB分類M5)と診断され、数種類の異なる薬物による抗癌治療を受けた。しかし現在まで一度も寛解に至っていない。1週間前から腰背部痛が出現したためNSAIDを内服したが効果は不十分で、昨夜からは腹痛も出現し次第に増悪して自立歩行不能となったという。意識は清明だが顔面は苦悶様である。身長171cm、体重54kg。体温37.1℃。脈拍88/分、整。血圧118/78mmHg。眼瞼結膜は貧血様である。胸骨右縁に収縮期駆出性雑音を聴取する。四肢に皮下出血を認めない。血液所見：赤血球282万、Hb8.0g/dL、Ht26%、白血球52,400(骨髄芽球74%、桿状核好中球2%、分葉核好中球12%、好酸球1%、好塩基球1%、リンパ球10%)、血小板10万。血液生化学所見：総蛋白5.1g/dL、アルブミン2.8g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、直接ビリルビン0.2mg/dL、AST34U/L、ALT37U/L、LD1,350U/L(基準120~245)、尿素窒素19mg/dL、クレアチニン1.3mg/dL、尿酸9.8mg/dL。腹部超音波検査と腹部CTで、広範囲に腸間膜リンパ節と後腹膜リンパ節の腫大が認められ、それによる消化管への圧迫と浸潤が疑われた。

現時点でまず考慮すべき治療はどれか。

- a アルブミン製剤投与
- b オピオイド投与
- c 血小板輸血
- d 全身放射線照射
- e 薬物による抗癌治療

44 2歳の男児。生来健康であったが、発熱を主訴に母親に連れられて来院した。診察時に母親が離れても啼泣しない。体温 38.2℃。心拍数 110/分、整。血圧 98/62 mmHg。呼吸数 30/分。SpO₂ 98% (room air)。毛細血管再充満時間は 2 秒以内。自発的に開眼しており光をまぶしがるが、視線が合わず追視をしない。

この患児に疑われるのはどれか。

- a 頻拍
- b 低血圧
- c 意識障害
- d 呼吸不全
- e 末梢循環障害

45 84歳の女性。腹痛のため救急車で搬入された。2日前から排便がなく腹痛と腹部膨満感を自覚するようになった。今朝から症状が強くなったため救急車を要請したという。意識は清明。体温 37.5℃。心拍数 98/分、整。血圧 148/94 mmHg。呼吸数 22/分。SpO₂ 97% (鼻カニューラ 3L/分酸素投与下)。腹部は膨隆し腸雑音はやや亢進し、打診で鼓音を認める。左腹部に圧痛を認めるが反跳痛はない。腹部エックス線写真(別冊No. 7)を別に示す。

まず行うべき対応はどれか。

- a 降圧薬投与
- b イレウス管留置
- c 内視鏡的整復術
- d グリセリン浣腸
- e 抗コリン薬投与

別冊

No. 7

46 32歳の経産婦(2妊1産)。妊娠12週。出生前診断について相談するため、遺伝カウンセリング外来に夫婦で来院した。これまでの妊娠経過に異常を認めない。28歳の時に出産した子供がDown症候群であった。無侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)について知りたいという。

説明として適切なのはどれか。

- a 「羊水を使って検査を行います」
- b 「検査のために流産する確率は0.3%です」
- c 「検査で先天性疾患の80%が診断できます」
- d 「検査の結果が陽性であっても確定診断にはなりません」
- e 「妊娠16週以降にならないと検査することができません」

47 42歳の男性。健康診断で異常を指摘されたため受診した。既往歴、家族歴に特記すべきことはない。喫煙歴は20本/日を13年間。飲酒はビールを500mL/日。身長167cm、体重78kg、腹囲104cm。体温36.4℃。脈拍68/分、整。血圧138/76mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液生化学所見：総蛋白7.5g/dL、アルブミン4.2g/dL、総ビリルビン0.6mg/dL、AST45U/L、ALT52U/L、 γ -GT130U/L(基準8~50)、尿素窒素28mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL、尿酸7.9mg/dL、空腹時血糖130mg/dL、HbA1c6.8%(基準4.6~6.2)、トリグリセリド250mg/dL、HDLコレステロール33mg/dL、LDLコレステロール142mg/dL。

まず行うべきなのはどれか。

- a 降圧薬投与
- b ニコチン補充療法
- c 75g経口ブドウ糖負荷試験
- d 生活習慣に関する詳細な聴取
- e 週3回以上のジョギングの推奨

48 67歳の女性。健康診断で胸部エックス線写真の異常陰影を指摘され、精査目的に来院した。喫煙歴は25本/日を47年間。体温36.4℃。脈拍64/分、整。血圧124/76 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂ 97% (room air)。胸部CTで異常を認めため、気管支鏡下に擦過細胞診を施行した。胸部エックス線写真(別冊No. 8A)、胸部CT(別冊No. 8B)及び擦過細胞診のPapanicolaou染色標本(別冊No. 8C)を別に示す。

診断はどれか。

- a 腺癌
- b 小細胞癌
- c 大細胞癌
- d 扁平上皮癌
- e カルチノイド

別冊

No. 8 A～C

49 29歳の女性(1妊1産)。分娩後1日で入院中である。妊娠38週0日で骨盤位のため帝王切開分娩となった。術中出血量は800 mLで術中術後の経過は順調であった。術後の初回歩行を開始したところ、突然の呼吸困難と胸痛とを訴えた。意識は清明。身長154 cm、体重77 kg。脈拍104/分、整。血圧128/76 mmHg。呼吸数26/分。SpO₂ 92% (room air)。呼吸音に異常を認めない。

最も考えられるのはどれか。

- a 羊水塞栓症
- b 急性心筋梗塞
- c 周産期心筋症
- d 肺血栓塞栓症
- e 急性大動脈解離

50 78歳の女性。糖尿病で地域基幹病院の外来に月1回通院している。本人が食事の準備や部屋の掃除などに不安を感じている。独居であり、家族は遠方に住んでいるため日常的な協力は難しい。

自宅での日常生活支援を希望している時に、本人が相談する施設として適切なものはどれか。

- a 診療所
- b 保健所
- c 特別養護老人ホーム
- d 地域包括支援センター
- e 訪問看護ステーション

51 35歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠33週6日。妊婦健康診査のため来院した。これまでの妊娠経過に異常を認めていなかった。脈拍96/分、整。血圧126/68 mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。子宮底長29 cm、腹囲94 cm。内診で子宮口は閉鎖している。胎児推定体重2,120 g、羊水指数(AFI)18 cm。胎盤は子宮底部に位置している。職業は事務職である。明日から休業を申請するという。

この妊婦の休業を規定する法律はどれか。

- a 健康増進法
- b 母子保健法
- c 母体保護法
- d 労働基準法
- e 次世代育成支援対策推進法

52 28歳の初産婦(1妊0産)。妊娠40週0日午前0時に破水感があり、規則的な子宮収縮が出現したため、午前1時に来院した。妊婦健康診査で特に異常は指摘されていなかった。来院時、児は第1頭位で胎児心拍数は正常、陰鏡診にて羊水流出を認め、内診で子宮口は3cm開大していた。午前5時、子宮収縮は5分間隔、内診で子宮口は6cm開大、児頭下降度はSP±0cm、大泉門は母体の右側、小泉門は母体の左側に触知し、矢状縫合は骨盤横径に一致していた。午前9時、子宮収縮は3分間隔、内診で子宮口は9cm開大、児頭下降度はSP+2cmであった。内診で得られた児頭の所見(別冊No. 9 ①~⑤)を別に示す。

正常な回旋をしているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別冊

No. 9 ①~⑤

53 75歳の男性。脳梗塞の既往があり、通院中である。①右半身に軽度の麻痺があり、②利き手は右手だが左手で食事を摂取している。③杖をつけて屋外歩行は可能。④短期記憶は問題なく日常の意思決定は自分で行える。主治医は⑤要介護1と考えた。この患者が介護保険を申請することになった。

下線部で主治医意見書に記載が求められていないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

54 58歳の男性。1週前から両眼の視力低下を自覚し来院した。これまでに医療機関を受診したことはなかったという。喫煙歴は20本/日を26年間。血圧170/90 mmHg。血液生化学所見：尿素窒素 23 mg/dL、クレアチニン 1.2 mg/dL、空腹時血糖 160 mg/dL、HbA1c 8.2% (基準 4.6~6.2)、トリグリセリド 190 mg/dL、HDL コレステロール 25 mg/dL、LDL コレステロール 148 mg/dL。視力は右 0.1 (0.4×-3.0 D)、左 0.2 (0.7×-2.5 D)。眼圧は右 15 mmHg、左 13 mmHg。両眼の眼底写真、蛍光眼底写真、光干渉断層計(OCT)像および光干渉断層血管撮影写真(別冊No. 10A、B)を別に示す。眼底写真では点状・斑状出血、硬性白斑および軟性(綿花様)白斑を両眼に認める。光干渉断層血管撮影写真では毛細血管の減少を両眼に認める。

診断はどれか。

- a 加齢黄斑変性
- b 糖尿病網膜症
- c 網膜細動脈瘤
- d 網膜静脈分枝閉塞症
- e 網膜中心静脈閉塞症

別冊

No. 10 A、B

55 78歳の男性。排尿障害を主訴に来院した。2年前から尿勢の減弱を自覚していたという。3か月前からは頻尿および残尿感が出現し、昨日から症状が強くなり受診した。内服薬はない。意識は清明。身長165 cm、体重63 kg。体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧148/86 mmHg。呼吸数16/分。下腹部に膨隆を認める。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血1+、沈渣に赤血球5～9/HPF、白血球5～9/HPF。血液所見：赤血球476万、Hb13.8 g/dL、Ht39%、白血球5,200、血小板24万。血液生化学所見：尿素窒素28 mg/dL、クレアチニン4.4 mg/dL、Na137 mEq/L、K5.0 mEq/L、Cl114 mEq/L。腹部超音波像(別冊No. 11A～C)を別に示す。

まず行うべきなのはどれか。

- a 血液透析
- b 腎瘻造設術
- c 利尿薬投与
- d 尿管ステント留置
- e 尿道カテーテル留置

別冊

No. 11 A～C

56 32歳の男性。発熱、鼻汁および咳嗽を主訴に来院した。夏休みの家族旅行で1週間東南アジアに滞在し、2週前に帰国した。来院時の現症では結膜充血、口腔内に白色斑と全身に癒合性のある紅斑を認めた。

誤っているのはどれか。

- a 保健所へ届け出る。
- b ウイルス遺伝子検査を行う。
- c 陰圧個室管理体制で診療する。
- d 患者の受診前の行動を確認する。
- e 感染予防にサージカルマスク着用が有用である。

57 43歳の男性。自営業。すぐに機嫌を損ねて怒鳴るようになったため、妻と母親に説得されて来院した。3か月前に父親が急逝してからしばらくの間、元気がなく、家族と話さなくなった。1か月前から店で必要以上にたくさん仕入れをするようになり、従業員に対して大声で怒鳴りつけるようになった。商品陳列の場所を何度も変え、始終移動させているようになった。元来ほとんど飲酒をしなかったが、毎晩飲酒をするようになったという。多弁で、感情の動きが激しく表出され、話題が際限なく広がる。本人は受診について不満であり、精神的なストレスで悲観的な考えに陥っている家族の方に治療を受けさせたいと述べている。これまでに発達上の問題はなかった。血液検査、頭部MRI及び脳波検査に異常を認めない。

この患者にみられる症状はどれか。2つ選べ。

- a 感覚失語
- b 観念奔逸
- c 行為心迫
- d 連合弛緩
- e 小動物幻視

58 38歳の女性。下腹部痛を主訴に来院した。5年前から月経時に下腹部痛と腰痛を自覚するようになった。1年前から月経初日と2日目に仕事を休むようになった。3か月前から月経終了後に下腹部痛と腰痛が出現し仕事を休むようになった。月経は28日周期で整。持続5日間。現在妊娠希望はないが将来は妊娠したいと思っている。飲酒は機会飲酒。母は子宮筋腫で子宮摘出術を受けた。身長162 cm、体重58 kg。体温36.8℃。脈拍68/分、整。血圧108/76 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腹部に圧痛のある腫瘤を触知する。内診では、子宮は前屈で正常大。左右付属器の腫瘤はそれぞれ径10 cmで圧痛を認める。Douglas窩に有痛性の硬結を触知する。下腹部MRIの矢状断像(別冊No. 12)を別に示す。

治療法を決める上で考慮すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 身長
- b 飲酒歴
- c 家族歴
- d 疼痛の強さ
- e 妊孕性温存の希望

| |
|--------------|
| 別冊 No. 12 |
|--------------|

59 25歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠34週4日に周産期管理のため、自宅近くの産科診療所から紹介されて来院した。既往歴、家族歴に特記すべきことはない。身長160 cm、体重59 kg。体温36.6℃。脈拍80/分、整。血圧120/72 mmHg。内診時の帯下ではBTB試験紙の色の変化はなかった。腹部超音波検査で胎児は頭位で、推定体重は2,050 g、羊水指数<AFI>は3.8 cmだった。臍帯断面の超音波像(別冊No. 13A)及びノンストレステスト<NST>の結果(別冊No. 13B)を別に示す。

説明として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 「絶対安静が必要です」
- b 「前期破水が疑われます」
- c 「羊水過少が疑われます」
- d 「今日中に分娩にする必要があります」
- e 「赤ちゃんの先天的な病気の精密検査が必要です」

別 冊

No. 13 A、B

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

46歳の女性。急性虫垂炎の手術のため入院中である。

現病歴 : 3日前に急性虫垂炎のため虫垂切除術を施行した。昨日から38.0℃の発熱を認めているため、本日の朝に診察を行った。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴 : 父親が膀胱癌のため68歳で死亡。

現症 : 意識レベルはJCS I-1、GCS 15(E4V5M6)。身長155 cm、体重48 kg。体温37.2℃。脈拍112/分、整。血圧78/40 mmHg。呼吸数28/分。SpO₂ 94% (room air)。頸部リンパ節に腫脹を認めない。心音に異常を認めない。呼吸音は左下胸部で減弱し、coarse cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腹部の手術創部に異常を認めない。背部に叩打痛を認めない。両下腿に浮腫を認める。

検査所見 : 血液所見：赤血球388万、Hb 11.2 g/dL、Ht 36%、白血球9,800(桿状核好中球39%、分葉核好中球45%、好酸球3%、好塩基球2%、単球4%、リンパ球7%)、血小板18万、Dダイマー3.4 μg/mL(基準1.0以下)。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン2.9 g/dL、尿素窒素21 mg/dL、クレアチニン1.2 mg/dL、Na 139 mEq/L、K 4.1 mEq/L、Cl 108 mEq/L。CRP 12 mg/dL、乳酸14 mg/dL(基準5～20)。胸部エックス線写真(別冊No. 14)を別に示す。血液培養2セットから*Klebsiella pneumoniae*が検出された。

別 冊

No. 14

60 診断として最も考えられるのはどれか。

- a 肺炎
- b 腎盂腎炎
- c 創部感染
- d 急性胆管炎
- e 化膿性脊椎炎

61 酸素投与とともに、生理食塩液 1,500 mL を輸液したところ、体温 38.1℃、脈拍 96/分、整。血圧 112/64 mmHg、呼吸数 24/分、SpO₂ 97% (鼻カニューラ 3 L/分酸素投与下) となった。

この患者の状態はどれか。2つ選べ。

- a 菌血症
- b 敗血症
- c 多臓器不全
- d 敗血症性ショック
- e 播種性血管内凝固(DIC)

62 抗菌薬治療を開始した。

効果判定にまず用いるべき指標はどれか。

- a 呼吸数の減少
- b 下腿浮腫の消失
- c CRP 値の正常化
- d 白血球数の正常化
- e Dダイマーの正常化

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

23歳の男性。自宅で倒れているのを発見され救急車で搬入された。

現病歴 : 徹夜でゲームをしており、昨夜から母親の制止を聞かずに市販のカフェイン含有飲料を多量に飲用していた。摂取カフェイン総量は2,500 mg以上と推定された。今朝、自宅で倒れているのを母親が発見し救急車を要請した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 家族と同居、一日中家にいて、外出することは少ない。3年前に退職後は定職についていない。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 呼びかけにより開眼、「アー」と発語はあるが問いかけには答えられない。痛み刺激に対して手で払いのける。体温38.2℃。心拍数148/分、整。血圧98/70 mmHg。呼吸数30/分。SpO₂ 97% (マスク5 L/分酸素投与下)。瞳孔径5 mmで左右差を認めない。口腔内に吐物を認める。運動麻痺を認めない。腱反射の異常を認めない。心音に異常を認めない。両胸部にcoarse cracklesを聴取する。多量の尿失禁を認める。

検査所見 : 血液所見：赤血球459万、Hb 15.1 g/dL、Ht 44%、白血球11,400、血小板25万。血液生化学所見：AST 28 U/L、ALT 24 U/L、CK 624 U/L (基準30～140)、尿素窒素40 mg/dL、クレアチニン0.9 mg/dL、血糖112 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 3.8 mEq/L、Cl 96 mEq/L。CRP 2.4 mg/dL。

63 最初に行う輸液の組成として最も適切なのはどれか。

- a 5%ブドウ糖液
- b Na⁺ 35 mEq/L、K⁺ 20 mEq/L、Cl⁻ 35 mEq/L
- c Na⁺ 154 mEq/L、濃グリセリン、フルクトース配合液
- d Na⁺ 30 mEq/L、K⁺ 0 mEq/L、Cl⁻ 20 mEq/L、L-Lactate⁻ 10 mEq/L
- e Na⁺ 130 mEq/L、K⁺ 4 mEq/L、Cl⁻ 109 mEq/L、L-Lactate⁻ 28 mEq/L

64 静脈路確保の次に行うべき対応はどれか。

- a 胃洗浄
- b 気管挿管
- c 血液透析
- d 血液濾過
- e 活性炭投与

65 救急外来での処置後に集中治療室においてエコー下で右内頸静脈から中心静脈カテーテルを留置する方針となった。局所麻酔後にカテーテル留置のための穿刺を行ったところ鮮紅色の血液の逆流を認めた。穿刺針を抜去したところ同部位が急速に腫脹し始めた。血圧 92/60 mmHg。心拍数 130/分、整。

直ちに行うべきなのはどれか。

- a 赤血球輸血
- b 昇圧薬の投与
- c 局所の圧迫止血
- d 逆流した血液の血液ガス分析
- e 反対側でのカテーテル挿入手技の継続

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

80歳の男性。ふらつきを主訴に来院した。

現病歴 : 約半年前から家族との会話に積極的に加わらなくなり、家族からの問いかけにも答えないことがあったが、大きな声で話しかければ普通に会話ができおり、挨拶も自発的にできていた。約2か月前から屋内外で歩行時にふらつきがみられるようになり、最近、転倒するようになった。公共交通機関を1人で利用することができなくなったため、家族に付き添われて受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 妻と息子夫婦の4人暮らし。喫煙歴はなく、飲酒は機会飲酒。入浴、トイレ動作は可能である。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長164 cm、体重58 kg。体温36.6℃。脈拍72/分、整。血圧132/76 mmHg。呼吸数12/分。甲状腺腫と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察において、Weber試験では左に偏位している。軽度の構音障害を認めるが、失語はない。3物品(桜・猫・電車)の即時再生には問題ないが、遅延再生は困難である。立方体の模写と時計描画試験は不正確である。上肢Barré徴候は陰性で、四肢腱反射に異常を認めず、病的反射を認めない。指鼻試験で両側上肢に測定障害を認める。歩行は開脚不安定で、つぎ足歩行は困難である。Romberg徴候は陰性で、表在感覚および深部感覚に異常は認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球450万、Hb 14.0 g/dL、Ht 42%、白血球5,600、血小板30万。血液生化学所見：総蛋白7.8 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、総ビリルビン1.0 mg/dL、AST 16 U/L、ALT 18 U/L、LD 210 U/L (基準120～245)、ALP 250 U/L (基準115～359)、 γ -GT 18 U/L (基準8～50)、CK 80 U/L (基準30～140)、尿素窒素20 mg/d、クレアチニン0.9 mg/dL、尿酸5.0 mg/dL、血糖88 mg/dL、トリグリセリド150 mg/dL、HDLコレステロール40 mg/dL、LDLコレステロール140 mg/dL、Na 145 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 104 mEq/L。CRP 0.1 mg/dL。頭部MRIのT2*強調水平断像(別冊No. 15A～C)を別に示す。

別 冊

No. 15 A～C

- 66 神経診察所見から判断される病巣として考えにくいのはどれか。
- a 橋
 - b 海馬
 - c 頭頂葉
 - d 小脳半球
 - e 脊髄後索
- 67 高齢者機能評価簡易版(CGA 7)の評価に必要な項目で読み取れないのはどれか。
- a 意欲
 - b 情緒
 - c 認知機能
 - d 基本的 ADL
 - e 手段的 ADL
- 68 医療面接および神経診察の結果から判断して、異常を示す可能性が高いのはどれか。
- a 嗅覚検査
 - b 針筋電図
 - c 膀胱内圧
 - d 純音聴力検査
 - e 体性感覚誘発電位

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

66歳の男性。胸背部痛と左上下肢の筋力低下のため救急車で搬入された。

現病歴 : 本日午前11時、デスクワーク中に本棚上段から書類を取ろうと手を伸ばしたところ、激しい胸背部痛が突然出現した。その後すぐに左片麻痺が出現し、さらに重苦しい胸痛と冷汗が出現したため、発症から30分後に救急車を要請した。

既往歴 : 2年前から高血圧症で通院治療中。

生活歴 : 妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親は脳出血のため86歳で死亡。母は胃癌のため88歳で死亡。

現症 : 意識は清明。身長162cm、体重80kg。血圧78/62mmHgで明らかな左右差を認めない。脈拍108/分(微弱)、整。呼吸数18/分。SpO₂99%(room air)。頸静脈の怒張を認める。眼瞼結膜に貧血を認めない。心音はI音II音とも減弱しており、胸骨左縁第3肋間を最強とするII/VIの拡張期灌水様雑音を認める。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。左上下肢に不全片麻痺を認め、Babinski徴候は陽性である。

検査所見 : 心電図は、心拍数108/分の洞調律で、肢誘導および胸部誘導ともに低電位で、II、III、aVfにST上昇を認めた。

ポータブル撮影機による仰臥位の胸部エックス線写真(別冊No. 16A)及び6か月前に撮影された立位の胸部エックス線写真(別冊No. 16B)を別に示す。胸部エックス線写真を見比べながら、研修医が指導医に所見や解釈を報告した。

別冊

No. 16 A、B

- 69 適切なのはどれか。
- a 「6か月前と比較して胃泡が多くなっています」
 - b 「本日の写真では下行大動脈が認められません」
 - c 「本日の写真では著しい気管の偏位が認められます」
 - d 「6か月前と心拡大の程度を比較するのは困難です」
 - e 「いずれの写真でも CP アングル〈肋骨横隔膜角〉は鋭なので胸水貯留はありません」
- 70 この時点で可能性が低い疾患はどれか。
- a 脳梗塞
 - b 大動脈解離
 - c 急性冠症候群
 - d 肺血栓塞栓症
 - e 心タンポナーデ
- 71 治療方針決定のために優先される検査はどれか。
- a 心臓 MRI
 - b 胸部造影 CT
 - c 冠動脈造影 CT
 - d D ダイマー測定
 - e 心筋トロポニン T 測定

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

76歳の女性。全身倦怠感と食欲不振を主訴に来院した。

現病歴 : 65歳時に高血圧症および骨粗鬆症と診断され、かかりつけ医にて内服加療を受けていた。2か月前から変形性膝関節症の治療を受けていたが、立位や歩行時の痛みが強く、ベッド上で過ごすことが増えていた。1週間前から食欲が徐々に低下していた。3日前から全身倦怠感の訴えがあり、ベッド上からほぼ動かなくなった。同居していた家族が心配し、付き添われて受診した。

既往歴 : 74歳時に脳梗塞を発症。

生活歴 : 左上下肢の不全麻痺としびれ感が残っており、杖歩行であるが身の回りのことは1人でできていた。喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴 : 父親が68歳時に肺癌で死亡。

現症 : 意識は清明。身長155 cm、体重41 kg。体温36.2℃。脈拍104/分、整。血圧86/54 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂ 97% (room air)。眼瞼はくぼんでいる。眼瞼結膜は貧血を認めない。口腔粘膜は乾燥している。頸静脈は虚脱している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。左上下肢に麻痺を認める。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、潜血(－)、糖(－)。血液所見：赤血球396万、Hb 12.1 g/dL、Ht 39%、白血球8,600、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dL、アルブミン3.1 g/dL、AST 34 U/L、ALT 12 U/L、LD 221 U/L (基準120～245)、ALP 352 U/L (基準115～359)、CK 38 U/L (基準30～140)、尿素窒素52 mg/dL、クレアチニン2.2 mg/dL、血糖104 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 108 mEq/L、Ca 12.4 mg/dL、P 3.6 mg/dL。CRP 0.2 mg/dL。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは26点(30点満点)。

72 入院後、病棟薬剤師が確認したこの患者のお薬手帳(別冊No. 17)を別に示す。

中止すべき薬剤はどれか。3つ選べ。

- a 降圧薬
- b 抗血小板薬
- c ビタミン B₁₂
- d 活性型ビタミン D
- e NSAID

別 冊

No. 17

73 適切な内服薬の調整や輸液により、全身倦怠感と食欲不振は改善したが、入院中の診察にて、軽度の嚥下機能障害と左下肢関節の拘縮がみられた。また、家族からの話で、かかりつけ医からの処方薬が適切に内服できていないことが判明した。

この患者の退院支援に向けて協力が不可欠な職種はどれか。3つ選べ。

- a 薬剤師
- b 義肢装具士
- c 言語聴覚士
- d 理学療法士
- e 臨床工学技士

74 この患者で退院後の転倒・骨折リスクを低下させるために有用なのはどれか。

- a 外出の制限
- b 軽い運動の励行
- c 体重減量の励行
- d 塩分摂取量の増加
- e リン摂取量の増加

75 人口 12 万人の A 市のある年の死亡者数は 510 名であった。A 市の年齢群別の人口と死亡者数、同じ年の日本全国の年齢群別の人口の概数を示す。

| 年齢群 | A 市 | | 日 本 |
|---------|------|---------|-------------|
| | 死亡者数 | 人 口 | 人 口 |
| 0～19 歳 | 20 | 40,000 | 20,000,000 |
| 20～64 歳 | 140 | 70,000 | 70,000,000 |
| 65 歳以上 | 350 | 10,000 | 30,000,000 |
| 合 計 | 510 | 120,000 | 120,000,000 |

表の日本全国の人口を基準人口としたとき、A 市の人口 1,000 人あたりの年齢群で調整した死亡率を直接法で計算せよ。

ただし、小数第 2 位以下の数値が得られた場合は、小数第 2 位を四捨五入すること。

解答： . /人口 1,000 対

| | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
| 0 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 |
| 5 | 5 | 5 |
| 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 |

